



ゆすはら町議会だより

四万十源流

令和3年1月20日

第114号

題字 議長 土釜 清





土釜議長

迎春



初春を迎え

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年も皆様にとって輝かしい年になりますよう

ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和三年 元旦

議会議長 土釜 清

梶原町議会

議長 土釜 清
副議長 下元 秀俊

議会運営委員会

委員長 西川 慶男 (6人)
副委員長 市川 岩亀
委員 森田 呂弥
委員 西川 豊正
委員 高橋 基文
委員 中越 計清
オンゼーパー 土釜 清
オンゼーパー 下元 秀俊

総務教育厚生常任委員会

委員長 中越 計清 (5人)
副委員長 森田 呂弥
委員 下元 秀俊
委員 土釜 清
委員 西川 慶男

産業建設常任委員会

委員長 高橋 基文 (5人)
副委員長 中越 計清
委員 西川 豊正
委員 下元 秀俊
委員 市川 岩亀

議会広報編集委員会

委員長 西川 豊正 (7人)
副委員長 高橋 基文
委員 森田 呂弥
委員 下元 秀俊
委員 市川 岩亀
委員 中越 計清
委員 西川 慶男

事務局

局長 大川真一郎
書記 藤井 誠子



下元副議長



西川(慶)議員



中越議員



高橋議員



西川(豊)議員



市川議員



森田議員



表紙写真の紹介



新たな思いを胸にした
新成人

12月 定例会(第356回)

議会12月定例会は、12月16日から12月18日の3日間の会期で開催した。議案審議では、一般会計補正予算や生涯学習交流センターの設置及び管理に関する条例の制定、梶原町国民健康保険税条例の一部改正などの条例改正、過疎自立促進計画の変更、辺地総合整備計画の制定、変更、工事請負契約の変更など審議し原案どおり可決した。

また、一般質問には、西川慶男議員が「吉田町政におけるこれまでの3年間の評価と、残り1年における諸施策の見通しについて」、「次期町長選挙への出馬について」、高橋議員が「現在検討されている日本食研とのコラボ企画について」、下元議員が「理想郷ゆすはらについて」町の考えを問いただした。

行政報告

町長は、令和2年9月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。

総務課関係

- ・ 旭日双光章受章について
- ・ 選挙管理委員会委員の選任について
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策本部会について

企画財政課関係

- ・ 国勢調査について
- ・ 梶原町開発振興計画審議会について
- ・ 視察等について

まちづくり推進課関係

- ・ 移住者の状況について
- ・ 若者定住対策審議会について

保健福祉課関係

- ・ 梶原町障がい者計画、第6期障がい福祉計画、第2期障がい児福祉計画の第1回策定委員会について
- ・ 障がいアート展について
- ・ 第8期梶原町高齢者福祉計画、介護保険事業計画の第1回策定委員会について
- ・ 食生活改善事業について
- ・ 雲の上のはつらつ教室について
- ・ インフルエンザ予防接種について

環境整備課関係

- ・ 再生可能エネルギー事業先進地視察について
- ・ 災害査定について

産業振興課関係

- ・ 梶原町持続化交付金について
- ・ 隈研吾×梶原町タイアップキャンペーン事業について
- ・ 梶原町チャレンジ起業支援事業補助金について
- ・ 太郎川公園再生計画について

森林の文化創造推進課関係

- ・ 梶原令和の森林づくり協議会「ReMORI」の若者サークル活動について
- ・ ツリークライミング研修会について

生涯学習課関係

- ・ 梶原学園運動会について
- ・ 梶原町生涯学習交流センター運営協議会の設置について
- ・ 第7回梶原町芸術祭について
- ・ 未来の学びフェスティバル2020について
- ・ わくわくパソコン教室について
- ・ 読書推進委員会研修会について

〈目次〉

新年挨拶
2

行政報告
3

12月定例会での決定
4～6

一般質問
7～9

委員会報告
10～11

12月定例会議案審議の概要

提案され審議した議案についての概要（質疑は抜粋）

補正予算

〔一般会計補正予算（第6号）〕

主な補正内容は、各費目共通内容として、人事院勧告による期末手当支給率の改定と、職員の異動等に伴います人件費の調整、総務費で道の駅ゆすはら、ホテル・レストラン等の設計業務委託料1億4千775万5千円の増額、新型コロナウイルス対策事業費で、避難所に設置する備蓄倉庫購入費545万6千円の増額、民生費では、低所得者の保険料軽減強化に伴う調整等で介護保険会計繰出金497万1千円の増額ほかで歳入歳出それぞれに1億9千346万5千円を追加し、その総額を79億1千618万2千円としようとするもの。

可決（全員賛成）



雲の上のホテル・レストランイメージ図

西川慶男
令和6年のオープンを目指し、今回、ホテル、レストラン等の設計業務委託料が計上されているが、これらの建物が完成した後、どのように運営、経営していくのか。また、雇用については、町内の各事業所においても人手不足でなかなか従業員の確保が難しいと感じているが、建物完成後、必要な人数を確保しスムーズな運営が行えるのか。

産業振興課長
商工振興協同組合において、しっかりとした支配人、副支配人の下で運営を行ってもらっており、新たな組織として運営をやっていくという想定である。雇用については、外国人も含め、町内外から新しい人材を広く求めていく。またそれに対する手当てもしっかりできるような組織体制を取っていく、募集をしていく。

町長
今後、観光協会を立ち上げ、協会ですそれぞれの部門を作り、その中で経営部門等しっかりと検討していきたいと考えている。

西川豊正
太郎川公園再生計画の説明会では沢山の意見やアイデアがあった。町民の意見を集約し、公園を含めた望まれるホテル等での観光を目指し、住民と共に進める理想郷ゆすはらを望む。

産業振興課長
太郎川公園にできる施設と町民の生活が切り離れたものになると、これは全く観光ということにはならなくなる。これから3年かけて説明し、意見も聞きながら対応していきたい。

下元秀俊
移住定住対策費について、全国的に都市部から地方への移住が増加している。本町にとって移住定住の好機である。対策はどうか。

まちづくり推進課長
コーディネーターを1名増員して積極的に進めいく。

下元秀俊
起業支援事業費補助金について、事業の内容と今後の進め方は。

産業振興課長
新たに、事業を起こしたい人に設備投資、家賃補助を行っている。現在、パン屋、ラーメン店など4件が実施。今後追加で4件ほどを予定。商工会、移住コーディネーターとも連携して進めていく。

高橋基文
太郎川公園の指定管理者は現在商工振興組合であり、今後は観光公社が運営していく準備になっているが公募は行わないとの理解で良いか。またマルシエも同様か。

町長
あくまでも新しい組織として再編をしていきながら取り組んでいく。

市川岩亀

設計委託料について、提案理由ではホテル・レストラン等の設計委託料とあるが、建物と土地造成を含む太郎川公園全体的な設計料なのか。

土地の敷地造成は基本的に分けて設計している。土地の敷地造成については、令和2年9月補正で計上しており、今年度に設計を仕上げて来年度に発注し仕上げる。

中越計清

今回、神在居部落の飲料水供給施設整備の予算が組まれているが、近年、降雨量も少なく干ばつ続きである。生活水、飲料水確保に苦労している住民も少なくないが、行政として調査を

し対応すべきである。

環境整備課長

過去において一定基準を決めた中で、町の補助事業で行っているとすると、それから先は基本的に維持管理部門になつてくると考えている。今後、水不足といった箇所が増えてきた場合には、現地を確認しどういった方法が考えられるかを役場内で調整、協議を進めて検討をしていく。

条例

【梶原町生涯学習交流センターの設置及び管理に関する条例の制定について】

大蔵谷に建築中の梶原町生涯学習交流センターの設置及び管理に必要事項を定めるための条例を制定しようとするもの。

可決（全員賛成）

下元秀俊

生涯学習交流センターについて、梶原高校の寮としても利用できるが、生徒の確保のためにも、寮費を低価格にすることで生徒の確保に効果的ではないか。

現在食費を含めて4万円で考えている。土日の食事を含めての金額である。

西川豊正

施設の空き部屋が生じた場合、学校に関わる教員の入居が可能と聞くが、入居料の規定は。

教員の方等を入居許可する場合には、月額3万円ということ、4月スタートからは料金の徴収をしていくことを考えている。

高橋基文

町内出身の学生も入寮対象になるのか、今までの寮は今後どうなるのか。また体育クラブ者とそのほかの生徒とのすみ分けも考えてはどうか。

梶原高校の在學生であれば、町内町外を問わず入居の対象とする予定。また孝山寮は、方向性は決まっていないが、高知県の意向も伺いながら、情報収集を図って行きたい。越知面の第2寮は、寮としての利用は終了する。

教育長

寮のすみ分けは運営協議会の中で、どうしても温かいご飯を食べさせたいという部分があるので、今の1寮の体制の中で考えていきたい。

市川岩亀

梶原高校生の寮と一般の人の住居を兼ねている。女子生徒については女子寮として区分けしているが、男子生徒は一般と区分けしていないが問題は生じないか。また、一般の入居者については慎重に選考すべきである。

施設上は一般の方と学生との区分けはしていないが、カードキーの整備等をしており、セキュリティの面では対応している。

教育長

入居者選考に関しては、学校、町長部局とも相談をして選考したいと考えている。



梶原町生涯学習交流センター(仮称)のイメージ図

12月定例会(356回)

議案一覧と議員賛否状況(賛成○、反対×、議長は裁決に加わらない)

議案番号	議案名	審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8
			森田呂弥	西川豊正	下元秀俊	高橋基文	土釜清	市川岩亀	中越計清	西川慶男
第 87 号	専決処分の承認を求めることについて(令和2年度高知県高岡郡栲原町一般会計補正予算(第5号))	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 88 号	専決処分の承認を求めることについて(一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 89 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町一般会計補正予算(第6号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 90 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町立松原診療所特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 91 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町立四万川診療所特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 92 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 93 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 94 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 95 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 96 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 97 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町下水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 98 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町風ぐるま事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 99 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町病院事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 100 号	令和2年度高知県高岡郡栲原町給与等集中管理特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 101 号	栲原町国民健康保険税条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 102 号	栲原町生涯学習交流センターの設置及び管理に関する条例の制定について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 103 号	栲原町後期高齢者医療に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 104 号	栲原町介護保険条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 105 号	栲原町過疎地域自立促進計画の変更について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 106 号	栲原町越知面区辺地総合整備計画の策定について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 107 号	栲原町四万川区辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 108 号	栲原町東区1辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 109 号	栲原町初瀬区辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 110 号	高幡東部清掃組合への加入について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 111 号	津野山養護老人ホーム組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 112 号	高陵特別養護老人ホーム組合共同処理する事務の変更及び規約の変更について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 113 号	工事請負契約の変更について(令和元年度(繰)元年災 台風10号災害(8.14~8.16)林道西の川川井線2号箇所災害復旧工事)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○
第 114 号	工事請負契約の変更について(令和2年度 都市防災総合推進事業 旧四万川小学校原子力災害対策施設整備工事)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○

12月定例会での決定



西川慶男 議員

問 次期町長選挙への出馬は

答 引き続きまちづくりへの 想いの実現に向けて取組みたい 町長 吉田尚人

◎吉田町政におけるこれまでの3年間の評価について。

問 就任当時の所信表明では、目指す町づくりとして、①福祉の充実、②教育の充実、③産業の振興、④安心して暮らせる環境づくりについて取り組むという話があったが、それぞれの進捗状況、具体的な成果、課題は何か。

答 町長 福祉の充実について、高齢者の移動手段について、いざ利用するときに利用しやすい生活交通としての公共交通の在り方を現在調査検討している。高齢者の方が利用しやすいためにも、また、誰もが気軽に利用できる生活交通機関の構築を進め、料金体系の見直しも含め検討したいと考えている。

教育の充実について、現在梶原町の18年間を支える教育、保幼小中高の一貫の最も根幹になる魅力ある梶原高校づくりに向けて、大蔵谷に生涯学

習交流センターを建設している。これは、高校生の新しい生活の場、地域の皆さんとの交流ができる場ということで建設を行っている。

産業の振興について、森林の文化創造推進課を今年度立ち上げ、伐期がきた梶原の山をしっかりと活用していく、そしてそれをお金に変えていく仕組みづくり、植林等、森のあるべき姿を議論する場として設置したところである。

また、観光面では雲の上のホテル・レストランの建築に向けて第一歩を踏み出し、それをしっかりと支えていく仕組みとして、観光公社を立ち上げる準備の予算を計上させていただいた。町内全体で住民の皆様が関わっていけるような仕組みづくりに取り組んでいきたいというふうと考えている。

安心して暮らせる環境づくりについて、ふれあい道路やがけくずれ住家防災対策事業等を取り組んできた。また、町組と飯母との境の山について

は、切り取りをすると約90万立方メートルもの残土が発生すること、それを処分する場所もないということも含めて検討してきた結果、安全な生活環境を確保するために、高知県のほうにお願いをし、急傾斜の事業を入れさせていただいて、用地の関係を当たりながら詳細設計のほうに取り組んでいただいている。

◎次期町長選挙への出馬について

問 この3年間で、吉田町政としてやるべきこと、取り組むべきことはしっかりと取り組まれていると評価しているが、さらに住民の皆さんが安心・安全に住むまちづくりのために、よりいっそう様々な住民の意見、意向、考え方をしっかりと

この3年間で、日頃私どもがやれていることが十分であるのかどうか確認をしながら取り組むしていきたいと感じている。この3年間、自分なりに約束したことの実現に向けて、それぞれの分野について準備作業というのが主であった。解決すべき課題も山積しており、住民皆様のご支持がいただけるのであれば、引き続き、まちづくりへの想いの実現に向けて取組んでいきたいと考えている。現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という大変な状況であり、当面は新型コロナウイルスへの対策、そして目指すまちづくり実現に向け、1年かけて一歩でも二歩でも進めていきたいと考えている。



梶原町の将来を担う子どもたち

かりとくみ取り、町政に反映させていくことがトップリーダーとしての使命であると考えている。それらのことも十分に認識し次期町長選挙への出馬についてを問う。

答 町長

住民の皆さんに、

問 企業誘致でないのなら 町民に負担が大きく危険である



答 町の財政負担が少ないよう協議検討を行う

町長
吉田尚人

高橋基文 議員

◎町長が現在検討されている日本食研とのコラボ企画について詳細を問う。

問 基本的な考え方は。

答 町長 梶原に食品加工施設をつくり、新たな雇用と加工による地域産品の付加価値を上げ、産業振興を進めていきたい、そして稼ぐ梶原にもなりたい。

問 なぜ企業誘致ではないのか。

答 町長 企業誘致というのは本社機能に利益を持つていかれる。また状況変更、事情変更が起こった場合に、引き揚げられると、何も残らなくなってしまう危険性がある。

問 運営方法はどう考える。

答 町長 第三セクターの形

を取りたい。町からの出資、また相手となる企業からの出資、それを募り三セクでの取組にしていきたい。

問 日本食研は出資をするのか。

答 町長 日本食研は出資しない。

問 第三セクターは難しいと考えるが出資者の目的はあるか。資金はすべて町の持ち出しになるのではないか。

答 町長 組むパートナーについては、検討段階であり、事業計画、あるいは経営計画などを日本食研の力を借りながら、基礎の段階を創ろうとしている。

問 規模はどう考える。

答 町長 将来的には、約100

名の雇用に結びつけていきたい。

問 資金調達はどう考える。

答 町長 ハード整備に当たり、その事業実施主体をどうするか、まだまだ検討段階だが、国の交付金や県の補助金を活用して、町の財政負担ができるだけ少ないようにしたい。また、運営は初期の運営資金の確保などのため出資を募る場面が考えられ、運営組織の形態も検討していくが、広く各方面の皆さんに支えていただく組織としていかなければならない。

問 企業誘致なら言うの考え方は町民の皆さんに重荷を背負わすことになる。町民の皆さんからも外部からも知恵をいただきながら、町民が望んでおる政策に方向転換をしていかななくてはならない。

答 町長 事業費として幾らかかるのか今の段階では数字が出ていないので分からないがあまりに過大だと、断念せざるを得ない事態も招くかも分からないし経営形態の様々な



愛媛県今治市にある日本食研KO宮殿工場

違う角度での検討もしくなくてはならない。いずれにせよ、この事業が町民の皆さんの未来の幸せにつながるように、議論を深めていきたい。

一般質問



下元秀俊 議員

問 加工産業の操業はいつを目標とするのか

答 令和7年の春を目指す 町長 吉田尚人

◎町長は就任以来、「それぞれの生きがい」を大切にしながら、満足と幸福を感じて、生涯を通じ安心安全に暮らせる町を作り、子々孫々につないでゆく「理想郷ゆすはら」を作る。このスローガンを掲げてこの3年間「まちづくり」にまい進してきたことと思う。任期も残すところ1年となった。

問 これまでの取り組みでできたこととその成果は。

答 町長 世界の課題解決先進地域として、産業、教育、福祉をはじめ基盤づくりに取り組んできた。産業の振興については、森林の文化創造推進課を設置し、森林の再生を進めるためにREMORIを設立し、人材育成を中心にまちづくりに大きな一歩を踏み出した。

教育分野においては、ハード面で給食センターを設置し、食育の推進にさらに取り組んできた。また、大蔵谷に地域交流

センターを建設しており、梶原高校の学生寮としても活用できることでも梶原高校の魅力化にもつながると期待している。また、ICTを活用して、子供たちのプログラミング教育を進めるために、補助事業を導入し、プログラミング教育を進めIT社会への対応する力をつけていってほしい。

また、梶原高校の魅力化の向上のために、留学制度をはじめ支援をしてきており、海外との交流、補習授業の充実など、今後もしっかりと応援していきたい。

問 産業の創出について、日本食研ホールディングスをベストパートナーとして食品加工産業を起業したいということであるが、持続的な産業の発展が大切である。その目的と意義は。

答 町長 食品加工産業を創出するというこの目的は、新たな雇用の場を作るのと、一次産業の振興に

つなげていきたい。そして、農産物など地域の資源を活用して商品づくりを進めていきたい。そうすることで、一次産業が将来的にも持続できるように進めていきたい。そのため、日本食研の技術支援、ノウハウ提供、人材育成など力をお借りして自前の産業として自立できるように立ち上げていきたい。

問 具体的な計画として検討を進めていると思うが、進める上では、目標とする創業時期を設定して進めることが大切である。操業開始時期はいつを目指すのか。

答 町長 事業内容も検討中であるが、可能であれば、令和7年の春の操業開始を目指して進めていく。

◎太郎川公園の再生について

問 ウェルネスゆすはらを掲げている。健康増進施設として、憩いの場としてもっと町民に利用してもらおうことが最も大事である。町長の考えは。

答 町長 「ウェルネスゆすはら」の拠点として、できるところから整備していく。こども連れでプールで遊び、温泉に入り、いろいろの時間を過ごせる公園、町民の健康づくり、町外の方々の交流の拠点として取り組んでいく。

◎観光交流産業への取り組みについて

問 隈研吾さんに協力いただくことも、交流を進めるうえで、本町の自然、歴史、伝統、食文化を提供していくための交流組織は、関係者だけではなく、民宿、ガイド、地域の住民など一体として進めていくことが大切である。考えは。

答 町長 そういった協議の場ができ、町づくりを進めていくグループ的なものも改めて作って進めていくことも考えている。



豊かな地域資源を活かしたい(ゆず)

福祉施策の充実を

総務教育厚生常任委員会 委員長 中越計清

調査の目的

本町では、「人の尊厳が守られ、それぞれの生きがいや幸福感を感じながら、町民一人ひとりが安心して住み慣れた地域で暮らし続ける」を基本理念として、行政と住民が一体となって地域福祉を推進してきた。

しかしながら、人口減少社会の到来、少子化、高齢化という厳しい現状に加えて、本年は新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という予想外の事態となっている。このような状況は、特に高齢者や障がいを持つ人達にとって、不安や心配が募る状況であると思われる。突如、降りかかったコロナ禍は、いまだ終息は見通せないが、これからの地域福祉のあり方を検討する事が大事である事から調査を行った。

調査の内容

今回は、本町の福祉行政を担当している保健福

祉課に出向き、各係から概要並びに現状報告と事業計画等について説明を受けた。また介護予防、日常生活圏ニーズ調査を通じたアンケートの内容や、今後の課題等についても質疑応答を行った。

これらの内容からは、全般的には本町の福祉政策、事業推進は出生から老後に至るまで、概ね手厚い施策によって提供されていると評価すべきと考えられるが、将来に向けての課題もあり、次のようなことが挙げられる。

- ① 労務関係では、働き方改革による労働生産性の低下
- ② 介護サービス事業では、介護ヘルパーの人材不足、利用者サービスの限定
- ③ 高齢者、障がい者の自立支援とボランティアの育成、雇用、就労支援
- ④ 高齢者、障がい者の移動手段の利便性の向上とガイドボランティア
- ⑤ 独居高齢者や認知症の人の見守りや小さな困りごとの解決
- ⑥ 若壮年時からの食事と

運動の必要性（老齡化しからの体力の維持向上は限界があるので、早いうちから体力づくりが必要である）

⑦ 「障がいのある」ということに、まだまだ理解が進んでいない。広報、イベント、教育などを通しての啓蒙が必要であること

⑧ 住民に寄り添った細やかなサポートは行政には限界があり、社会福祉協議会の利点を生かせる活動であること。

まとめ

人口減少は着実に進んでおり、地域で支え合うというこの現状は、特定の人に支えられて成り立っている状況である。

近い将来、担い手の不在などによる「地域コミュニティ」の崩壊が懸念され、大変危惧される。

また、障がい者の状況も同様に高齢化しつつあり、将来への不安となっている。地域での支えあう仕組みを再建するこ



熱心に討議を行う委員会

と、福祉ボランティアなどの人材の確保と育成、団体の支援と育成が喫緊の課題である。

人材確保については、町内外及び海外からの技能実習生を受け入れることにより、今後の課題解決になってくる

今、コロナ禍による新たな生活様式への変革する時である。地域における新たな仕組みを創設して地域福祉の充実と推進

を図る。そのためには行政と社会福祉協議会との役割を明確にするとともに、協同して取り組むことが必要不可欠である。そのことを提言し報告とする。

構成委員

- 副委員長 森田 呂弥
- 委員 下元 秀俊
- 委員 土釜 清
- 委員 西川 慶男

産業発展の課題が山積しており、対応を求める

産業建設常任委員会 委員長 高橋基文

調査の目的

本町において、産業の発展、特に基幹産業である一次産業の発展は重要な課題である。しかしながら環境の変化（JA高知県の合併）や気候の変化（異常気象）、最近では新型コロナウイルス感染症などによる予知できない影響によって、生活環境は変化せざるを得ない



ハウス農家を視察する委員

状況である。それらの変化に対し、いかに迅速かつ的確な対応ができるかが求められていると考えられる。現状の実態把握を行い、問題点に対してどのように向き合うことができるのか、またその解決策を的確に導けるようにするにはどのようなようにすれば良いのか現地調査を行うものである。

調査の内容

今回の調査は、農家個々の圃場に向いて視線を合わせ、実態を確認し、生産、販売（単価）、災害、取り組みや今後の要望を重視し、産業振興課川村係長、JA高知県高西地区津野山営農経済センターの氏原課長に同行をいただき、経営状況や個別の栽培技術等の聞き取り調査も行った。

本町の一次産業の柱となる、米なす、小なす、ミヨウガ、土佐甘長トウガラシ、畜産（繁殖、肥育牛）あわせて12戸の調査となった。

米なす、小なす栽培においては独自の栽培技術を生かし、目標に届く生産量となっている。みらい塾を経験し、認定農業者でも勝てない今年の異常気象や葉枯発育障害での収穫量低下やコロナ禍での飲食業界の消費低迷による野菜の価格低迷が直接栽培農家へ打撃を与え、前年度比20～30%の減収となった。また、ミヨウガ生産農家は、販売流

通が固定化し、特殊な栽培技術を持つており、生産量及び売上高においてもあまり変化を感じる事はなかった。

土佐甘長トウガラシ栽培も雨よけハウスでの調査を行ったが、異常気象による収益の減収は見られたものの、平年の価格で推移した。その要因はコロナによるアウトドアでの消費拡大とも言われている。JA高知県への経営統合により、営農指導員減少や農業全般にわたりサービスの低下が伺える。

畜産においては、町内で繁殖農家7戸、肥育農家1戸、畜産公社1社と減少の一途をたどっている。この中であって繁殖、肥育農家の多頭飼育生産農家を調査、新畜舎建設による繁殖多頭飼育の計画をされている。肥育農家にあつては一貫経営で、繁殖、肥育、精肉販売、ゆすはら特産品として地産地消に大きく貢献され、本町の畜産振興と合わせて産業振興に期待できるが、その反面、重要

まとめ

な点は、生活基盤経営の充実と、いわゆる複合経営の模索など検討すべきではないかと考える。

調査内容をふり返り、生産技術や個々の独自の栽培方法を用いて、他に劣ることのない生産量を確保されていると感じた。

しかしながら、コロナの影響は直接販売代金に影響し、収入は大きく減少、直接経費やハウスレンタル料等苦慮している状況にある。農業に関する全ての状況を把握し、また想定外の異常気象での豪雨、ハウス内高温障害対策、農業用水の確保など、一次産業発展の重要な課題が山積みしており、しっかりと対応を求め報告とする。

- 構成委員
- 副委員長 中越 計清
 - 委員 西川 豊正
 - 委員 下元 秀俊
 - 委員 市川 岩亀

心のふれあい広場 満足度も目指し幸福長寿

私たち人類は追い詰められました。

毎日流れるテレビ画面の速報テロップは、増え続ける各県の新型コロナウイルス感染症の感染人数。もう驚くこともない日常となりつつあります。今我々が出る

は、一人ひとり意識を持ち、3密回避、マスク、手洗い、うがい等の励行しかありません。なすべき事に全力を尽くしたいものです。

その中で、今回紹介させていたのは、「梶原シルバー人材センター



剪定作業をする梶原シルバー人材センター職員

ター」です。設立平成12年1月、中越利明さんを会長として発足しました。

進む高齢化社会の中で、豊かな知能、技術を持った意欲のある方が増加しています。この大いなる力で地域、社会経済の一つの歯車として積極的に活用させていた

く。そして、ご自身の健康保持と社会参加、生きがいづくりを進めていた

だきたいというような趣旨となっています。現在の会長は掛橋勤さんで、元役場職員8人を中心として会員94人です。主な業務内容の例をあげますと、太郎川公園全体の管理、役場、みどりの家、ふじの家では宿直、庭木の手入れ他、森林組合では、下刈り事業、害獣駆除、その他一般住宅においては庭木の手入れ、草引き等、手伝って欲しいこと。一人では出来ないことなどありましたら、ぜひ声をかけてみてください。

まだまだ元気で意欲の

ある高齢者の方は「梶原シルバー人材センター」のメンバーとして登録してください。人生これくらいいきいき明るい毎日で生きがいとなることうけあいです。

健康長寿だけでなく、これからは心の満足度も目指し、幸福長寿を目指しましょう。

西川慶男 記

あとがき

2020年(令和2年)、4年に一度のスポーツの祭典オリンピック。日本で二度目の開催を迎えた東京オリンピックの年、梶原町ゆかりの隈研吾氏設計の国立競技場を中心に世界中からスポーツアスリートが集い、技を競い合う様子が報道機関により、世界の各地に配信され、我が国にとって輝かしき年となるべき期待の年でしたが、年明けか

らの新型コロナウイルス感染症拡大を危惧し、一年開催延期となりましたが、新年を迎え日々の感染者数の現状から察すると、今年の開催は厳しいところです。私も議会、議員活動も感染防止対策上、町外、県外への視察、研修を自粛し、この機に町内に於ける産業振興、福祉、教育の向上等に視点を置き、各委員会所管調査を実施し、その経過を本会議で報告するとともに、

に、議会だよりも町民の皆さんに報告をして参りました。今回の調査により、町内でも課題とするところも多々あり、今後も町内に視点を置いた議会活動を実施して参ります。本年も議会だより四万十源流のご愛読をお願い申し上げます。皆様いコロナ禍が終息し、皆様にとって良き年でありますようお祈りいたします。

市川岩亀 記

寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより 四万十源流」に対し寄付をいただきました。紙面をもってお礼とご報告を申し上げます。

- ◇愛媛県鬼北町 松本 君恵 様
- ◇愛知県名古屋市 加藤 朝弘 様

閉会中の所管事務調査事項

各委員会は、3月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

- 議会運営委員会 …… 3月定例会の運営について
- 産業建設常任委員会 … 産業に関する件について
- 議会広報編集委員会 … 議会広報の発行について